

Title	国際交流：「教わる」から「教える」へ
Sub Title	International exchange: from "learn" to "teach"
Author	山崎, 由美子(Yamazaki, Yumiko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	Newsletter Vol.10, (2009. 12) ,p.5- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	夏季コース報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000010-0053

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

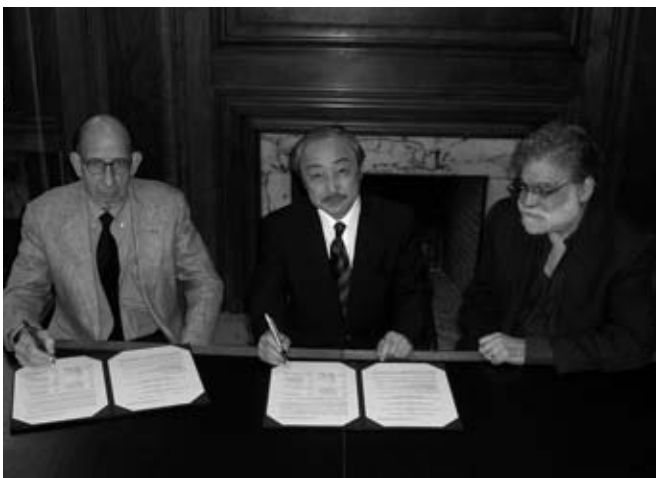
The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

マッギル大学と海外提携

Our new International Collaborator:
McGill University

マッギル大学医療社会学部門と本拠点との国際提携にあたって、2009年9月1日カナダ・マッギル大学において調印式が執り行われた。調印式にはマッギル大学から L. Kirmayer 教授, A. Young 教授そして慶應義塾大学からは本拠点リーダー渡辺茂教授が参加した。

CARLS and McGill University agreed on a mutual collaboration and the signing ceremony was held on the first of September, 2009 at McGill University.



拠点リーダー中国科学院 (生物物理部門) を訪問

Visit to the Chinese Academy of Sciences,
Institute of Biophysics

10月15日から19日にかけて中国科学院(生物物理部門)の招聘で北京に滞在し“Higher Visual Cognition in Birds”という講演、および“Interhemispheric Transfer of Memory”というワークショップを行った。生物物理部門の王先生はハト視蓋の電気生理学で著名であり、拠点リーダーとは旧知の間柄である。今回は今後の研究提携を含めて有意義な討議が行えた。(渡辺茂)

The director of CARLS was invited to the Chinese Academy of Sciences to have a lecture entitled “Higher Visual Cognition in Birds” and a workshop on “Interhemispheric Transfer of Memory”. Participants had fruitful discussions including our future collaborations.



夏季コース報告

国際交流 — 「教わる」から「教える」へ—

International Exchange: From “Learn” to “Teach”

8月10日から21日までの10日間、ドイツ Universität Bielefeld において、同大学と GCOE との共催で ‘Cognition and behavior’ というテーマの夏期コースが行われた。このコースは今年初めて行われ、同大学行動生物学研究室の Hans-Joachim Bischof 教授、および筆者が担当した。参加学生は修士2年目の学生8人で、コースは講義、エクサカーション、論文紹介、そして議論、から成っていた。

初日から2日間は担当者2人と、共同研究により滞在中だった渡辺拠点リーダーによる講義が行われた。エクサカーションとして、同大学神経言語学研究室の固有名詞認識時の脳波測定、Göttingen の霊長類研究所において MST 野の視覚反応特性に関する認知神経科学実験、Jülich の研究センターにおいて脳画像研究、Bochum の生物心理学研究室では、ハトの視覚系の電気生理実験およびヒトの大脳半球側性化の実験、同大学内運動認知研究室では、3次元動作解析システムによるバーチャルリアリティをそれぞれ見学した。最後は Magdeburg の発達神経生物学研究室を見学し、初期経験が及ぼす神経化学的影響などについての実験を目の当たりにした。論文紹介では、動物の認知機能や条件づけに関する論文について8人それぞれが30分ほどで発表を行った。

私にとって海外初講義であったため半端なく緊張したが、様々

な質問をぶつけてくる学生といつの間にか真剣勝負になり、緊張する余裕がなくなっていた。議論では学生のみならず Bischof 教授も大変率直な意見を交換していた。この夏期コースは、学生達にとっては広く研究分野を見渡すことができ、今後の自分の研究の方向を決める上で非常に有効だったと思う。私にとっては、試行錯誤を通して、いかに教えるかについて考えさせられた、実りの多い経験となった。(山崎由美子)

ビーレフェルト大学の HP での紹介記事：

http://ekvv.uni-bielefeld.de/blog/pressemitteilungen/entry/japanisch_deutsche_sommerschule_animal_learning

Joint summer school between GCOE and Universität Bielefeld on ‘Cognition and behavior’ was held from August 10th to 21st at Universität Bielefeld, in Germany. Eight master course students participated. The course included lectures by Prof. Hans-Joachim Bischof, Prof. Watanabe, and me, several excursion programs to well-known laboratories inside the university and outside, in Göttingen, Jülich, Bochum, and Magdeburg, and paper presentations by the students.